

# 女の会通信

- 特集「女たちの明日のために」
- シリーズ「ミュンヘンの女たち その3」
- 授業・からだといのちと食べものと  
— 鳥山先生と子どもたちの1か月
- お知らせ
- コーヒーブレイク

1986.6.25

## ■ ■ ■ 女たちの明白のために ■ ■ ■

独身の女たちは、男をどうみているのか。家庭を営まずに何を考えているのか。いわゆる適令期を過ぎた三十代と四十代の女四人が、「私にとっての男」について語り合いました。みんな、二十代の時とはずいぶん変化した。私にとっての男々になっっているようです。

### ★独身女の本音

**A** 独身女だけで話すなら、男の話ではなくて、何を目的に生きるか、ひとりで生きるということはどういうことかという話ならしたいという人もいる。

**B** 私もその辺にさしかかかっていて、年齢という訳ではないけど、今までいろいろな場面にあっているし、男は好きだし、付き合うけど、もうあまり悩んだり深く考えたりはせんばいという気がある。男とのことは、わからないといえればわからないし、いくら関わっても一朝一夕には男は変わらないし、変わらなからこの男はダメだといっても、それなら男は全部だし。自分が好きで付き合いたかったら、そのうち変わることもあるのかなあといっただかんじで、ケンカしながらもというこ

ころかな。

**A** 過大な期待はせずね。(爆笑)

**B** だから、早く自分の生きがいを見つけたい。

**A** 男について話すことがないというのは、別のことに興味があるから男のことにまで興味が湧かないということではないと思う。男にこだわりのあるから男のことについては蓋をしたくなる。私は自分の中でことん男にこだわりたい。その上で何かわかって男に対する妙なこだわりを卒業できたらと思う。

**C** 私は父を見て、男ってすかんねと思っていた。社会に出て、親切にしてくれた男がいて、あう男って意外にやさしいねと思った。でもその人以外の男はそうじゃないし、やっぱりやさしい人ばかりじゃないなと思った。私も若かったから魅力的だったんでしよう。職場を変わって組合活動をやるようになったら、男性には全然興味がなくなつた。人間としてしか付き合ってたかった。若い時に好きだった人は、この人といったら幸福になれるという安心感があった。とても責任感の強い人で尊敬していた。二十一才の時に、もう母もとくなつていたし、父も仕事ができないう状態だったし、きょうだいも下にたくさんいたし、その中で兄が自立して生活していけないような状況だったので、私が家族のめんどろを見なければならぬかなと

思ったりして、心とはうらはらに、好きな人に別れを突然宣言してしまった。でもそのあととてみじめな気持ちになつたね。

A 自分の人生で必死だったら、適令期とか結婚とかはあまり問題にはならない。一生ひとりかなとか、子供を産まないかなとか、全く考えないこととはないけど。

B 結婚しないことについては未練はないけど、子供については、未婚で子供を産むことが社会的に認められていないことで自分が産まないとしたら、ひとつやり残しているような気がする。いつでもどこでも誰でも産めるのに産まないのなら、どうってことはないけど。

A 子育てのおもしろさとか、視野が広がるとかいうことは、実際その体験がないから、世の中で言われていろいろのを感じない。もともとその味をしらないんだから、やり残したという思いはない。C 私はきよらたいが七人もいたせいか、もう子育てをしたよりの気がする。もういい。精神的に非常に気をつかっていたから。

♀結婚なんかしない？

A 職場での男をみていたら、結婚なんて誰がするかという気になる。

C そり、私の職場でもそり、男の人の機嫌のい

い時と悪い時の差がひどい。でもそれを受け入れる人は、結婚している女の人数。

A 私は結婚に執着しないというより、いや結婚なんかせせん。というかんじね。好きな男とでも結婚となれば、うらよと待ってまゝと思う。むしろ結婚しなれば長く付き合いたい。なんでもなと思つたら、やっぱりまわりの夫婦をたくさん見ていてあまりいいなあとは思われないわけ。うらやましいと思わせるような結婚をしている人をおまり知らない。でも、結婚してないよりしている方がいいと判断すれば、結婚しまりかなと思うたろうけど、そんなふうにも思われない。どっちもどっちという気もある。そして今の状態をいやだとおも思われない。

B 私なんか、いいも悪いも、結婚したら子供を産めるからというのが強いね。でも子供を産むためだけにとは思われないから、いい人がいたら結婚して子供を産んでもいいなと思う。いいなあと思える男に出逢えね。

A 私は、むしろしたくない。結婚すれば、私に求めていろいろ関係がこわくなるよりの気がする。

B そりいう条件が合うよりの男はいないもんね。男と付き合ひのは、何がいいのかよくわからないうね。結婚も付き合ひのひとつたとは思われない。たとえは何でも私、ことを相手が認めてくれば、ひ

とりでいてもふたりでいても変わらないような生活かできるといふのなら、結婚する必要はないと思う。お互いにバラ／＼にしたことをすすむなら結婚はいらぬのよね。そんなことを考えたら、一緒に暮らすとか、付き合うとかいうのは何なのかなと思う。お互いにいい影響を与え合つて、ある程度変わつていくような所がないと意味がない気がする。そういうのがなかったら、男と女つてセックスしかできないような気がする。(爆笑) 会つて楽しいと言つてもね。

A 道端に咲いている花というだけじゃね。

B 全く男つ気のない生活も飽きそうだし。

C 職場では、男がいると雰囲気かわる。女ばかりだとギリ／＼しているけど、男がいると広い視野でものを見ているかんじで、私は男がいるとホツとする時がある。でもそう感じない女の人もいるみたいね。

D 私、今は私にとって男ってなんなのかということとほ余りにも混沌としていて、どういふふうに話したらいいかわからない。また今は話したいとも思わないのね。

#### \*私にとつての男

C きょうたいをみていたら男ってくだらんねと思うね。普通、女が男を頼るけど逆なのね。形にはより込むとやろうと思う。自由に物事を考えき

んとね。

A 私にとつての男ね。そうね、みんな余り関心がないみたいね。(へ笑う)

B 関心はあるんだけど色々言つても男ってなかく変わらんもんじやとつく／＼わかつた。言つてもしょうがないと思つても、言いたくなるけど。

A 私は男を変えようとか、変わつて欲しいとかいうのがなくなつたね。

D 私は最初から男を変えようとか、変わつて欲しいとかはあまり思わない。それは男に期待しないといふことではなく、その人がどういふふうに生きてきて、何にこだわって生きていくのかの方に関心があつて、むしろ、あなたは自分の好きなように生きていいよつていう事の方が強いね。

B 男が変わつて欲しいという気持ちの中には、今まで普通の女のひとばかり付き合つてきて、こんな女もいるんだぞとみせてやりたい。少しは女性を見る目も変わるんじゃないかと思つて。

A そういふ女の人がいるつていうことを知らなければ、でも男の人にとつては進歩する材料になるらうと思うね。

C 男も教育と環境によつては変わるんじゃないかと思うけど。(爆笑)

男に頼るつてことがなくなれば、私は男もそう必要じゃないつて思うよ。小さい時は、男は頼る

もんだと思つていたからある程度大人になつて父親をみて男つて頼れないなあと思つた。それには経済的にも精神的にも。

A それに頼りにならないから頼れないつていいこと？ 頼りになるのは自分だけというのかな。

C 結局、頼りになるのは自分だけだということだと思つてね。

B そりゃね、自分で商売しよりのかなあと思つた時全くひとりでするつていうことは不安で先行きどうなるかわからないと思つたりしたら、つい兄に相談したり、誰かに頼りたりするものネ。

私、最近思つて、何でも一主懸命に相談にのつてもらつたり、あけ、びろけに話す女の友達をむつても、やっぱり男の人と付き合いたいやう。それが何んなのかと思つたよ。

全員 そりゃろ！ そこらへんがわからない。

B 女達とたつたらしくたらんと思えはやめても、くだらん男とは付き合ひのね(笑)それがなんなのかあるとホント思つたよ。本当は男の人ともこういふ話をしたいんだけど、なかなか話にならないというか、男と女の話を改まって話したりはしないしね。だから男の人が何を考へているのかかわからない時があるよ。

最初は会つていてるだけで楽しいけど、段々話すうちに、自分が堪むまうな答えが返つてこなくな

つたりしたら、おもしろくなくなつたりするんだけど、それでも別れないのは何なのかなあ。

A 私は十年以上付き合つて別れたいから、その時は私にとつて男は何んだつたのかわかんないと思つたわけ。それなら結婚するかしないかの問題だつたわけよ。男は、だけど私はその男との関係ではみだしてたわけよ。相手が抱えきれないから、相手は私と結婚するからには非常にビビッていたわけ。何をしてもすかかわらないみたいで感じて自分が結婚すればこりりり女の人とはやつていけないだろうと。

自分についてくるとりりり女の人じゃないと自分にはダメだといつて、相手がそのことが自分4でハッキリして私と別れることにしたんだけど。私は十九才の時から付き合つて、その間ほかの人と付き合つてないから自分の総てを注いだとい

り部分があると思つたよ。その人を通してほかの男の人をみているといふところがあつた。だから私にとつての男といつたらその人のね、その人が男の総てを持つていてるわけじゃないのに男とはこりりりものだと。全部をみたわけじゃないけどほかの男は全然しらすに別れたいわけだから、何となく男に疲れるという感じもあつた。そのね、一種の虚脱状態みたいなものがあつたと思つたよ。

それから三年後位に付き合った人、っていうのは  
とにかくむこうが男で私が女であるというところ  
で気持ち、ワー、となったわけ。その時自分に  
こりいう部分があつたんだなあと初めて気がつい  
たのね。自分の女の部分、っていうのが出て私にも  
こんなところがあつたんやねと、思つて男に對して  
目が開かされたところがあるよ。だけど私がその  
人に対して求めるものは基本的に私が男に對して  
求めてやまないものを求め続けるわけ。相手はそ  
ういうものを持ち合わせてないから、そういうもの  
を求められるとシンドイ、っていうか、何んにお  
いてもかみ合わないわけ。結局、相手は恋をした  
いただけだ、たと思ひのね。

私はね、私が生きていくうえで、自分の中心に  
なつているところで通じ合える男がいたらいいや  
ろね、って思う。

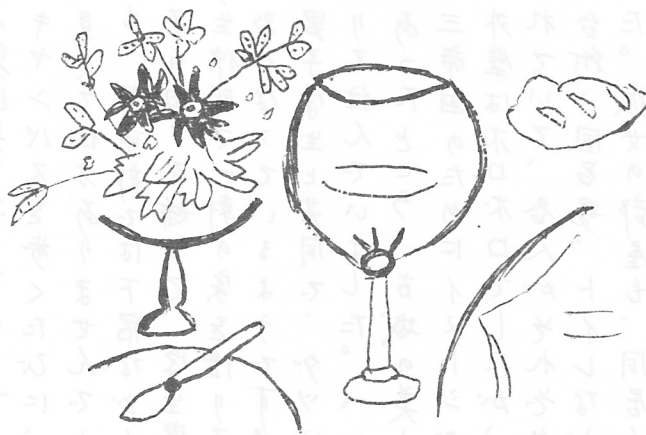
スキ、っていうだけだったら不満が残るのよね。  
全員、最初はそれでいいけど、やはり不満がでて  
くる。それにしても男、って何なのかね。

A 自分の生活の中心になるもの、っていうのがあ  
る時は絶対男が必要なのじゃないものね。

B いたらいい、いいけどさ。  
D たのしい、ってゆりだけじゃネ。

——この後も尚かつ男の話はえんえんと続きま  
したか、非常に具体的なおとこにまで及んでしま

って、読面に取りあげるのにははかられるよりな  
状態になつてしまひました。最後にみんなはこり  
言つてありました、「男の話、ってあまりあもしろ  
くないね」。最初にもどります。やはり、何を目的  
に生きるか、ひとりご生きるということはど  
りことかと。



ここで、西ドイツの大学のこと、学生たちのことに少しふれておきたいと思ひます。

第二次大戦後、日本の教育制度が大大きく変わったのに較べると、西ドイツでは大きな変革は行なわれませんでした。フオーク型のその制度は、小学校の四年生段階(十歳)で将来の進路を決めるのです。職人や売子となるか、中堅社員や看護婦などになるか、それとも大学に進む進路をとるか。将来、大学入学を目的とした子供は九年制の高等中学校(キムナジウム)に進学、そこで卒業資格(アヒトウア)を取ると、大学に進めるのです。(入学試験はありません) 日本と較べると、この卒業資格を取るのと同世代の二十%といわれ、まだまだ大学生はエリートといえます。前にも書いたように、大学はすべて国立で、授業料はタダ。ほとんどの学生は親元を離れて生活しています。日本の学生と違い、彼らの生活は実に質素です。服装はジーンズにTシャツやセーター。スタ袋のようなカバンを持ち、足元はスニーカー。髪は伸ばしたまま。食べるものも大学食堂(メンサ)で二百円くらい出せば、質量ともに十分満たされます。彼らは実によく勉強します

し、(大学卒業までこぎつけるのは六十%ほど)個人が確立し、大人の雰囲気を持つていきます。私は帰国して、長大のキャンパスを歩きたびに、学生が中学生のように見えて仕方ありませんでした。さて、西ドイツでも、都市部では下宿なども少なくなり、またその不自由さを嫌って、学生寮に入ったり、数人の学生仲間で一軒の家を借りて共同生活をするものが多くなっているようです。

K.Hさんも三人の男子学生と共同で、カツハウ郊外の古い農家を借りて住んでいました。(カツハウは強制収容所があったところ、古城の美しい素適な街なのに、第三帝国のためにイメージダウンしてしまつた) 外壁はボロボロでしたが、内装はきれいに改装されていて、各人がそれぞれ個室を持ち、居間、台所、風呂場、トイレなどを共同で使っていました。彼女の部屋も、同居人の部屋も見せてくれたりですが、猫を飼っている人もいたりして、それをれ個性的な住まい方をしているように見えました。

大家さんとも言ふべき農家の本宅は、彼女達の家から五〇メートルほど離れたところに建てていました。大きな美しい家で、窓辺の真白いレースのカーテンが印象的でした。乳牛、アヒル、ウサギ、ニワトリ、犬、猫などがとまり飼われており、実に豊かな生活を実感しました。家のまわ

りは一面の麦畑や雑木林で、絶好の散歩コースでした。

先日の子エルノブイリ原産の事故は、ヨーロッパ全土を恐怖のドン底におとし入れました。私の知人がボーンに留学しているのですが、牛乳やサラダ用の野菜は市場に出ていないという事です。この問題のあまりの深刻さに、人々はた肩とすくめるだけで、話題にもならないとのことです。この問題だけでなく、東西の接点とも言いべき西ドイツは、有事の際は真っ先に核攻撃の対象となるので、よりから、いやがりえにも、環境問題、政治問題、国際問題を避けてとあるわけにはゆきません。KHさんも非常に意識の高い人で、私達とはよく、パーシング工配備のことなどを話したものでした。

KHさんもそうでしたが、学生たちのコール首相嫌い（知性と教養に欠けるとのこと）、アメリカ嫌い（先日来長したBRさんなど、銜でアメリカ人観光客から話しかけられなくても返事をしなかった）は徹底しているよりでした。

KHさんはエコロジストと語りべきでしょうが自然の中での生活が好きで、空地に野菜を作り、肉はあまり食べない人でした。まわりに動物がどっさりといるので、ハエには閉口させられました。彼女の用意してくれたコーヒーマクツキーには真

黒にたかっているし、いっしょに台所でサラダを作った時など、野菜を刻むよりハエを追う方が忙かしいといつたふりでしたが、その中で彼女は、悠然とコーヒーを飲んでいました。脱帽、彼女はまた、奥に交際範囲の広い人で、私達のアパートにもよく人を連れてきて遅くまで話し込むことがありました。彼女の家庭教師先のOさん宅は私達の比じゃなく、少々迷惑な事も多かったようです。このことは今でも繞りていて、東京のOさん宅には、全く見知らぬドイツ人が、KHさんの紹介で来ました」と言って来るとのこと。ろくに日本語も話せない人が来た時など、ホトホト疲れてしまるとはOさんの奥さんの話でした。アシャイで内向的な人の多い日本語学科の学生と活発で押し強いKHさんはあまり相性が良くありませんでした。双方が同席した時など、気まづい雰囲気になり、私達が苦勞して場を取りつくりました。今となつては懐かしい思い出となりました。



## 映画

授業。からたといのちと食へものと

——鳥山先生と子どもたちのエカ月——

映画は、一ヶ月にわたり鳥山先生の授業を記録している。例えば田がってしまったダイコンを見ながら、なせダイコンが曲がってしまったのか、ダイコンの気持ちになつて考えたり、教室に豚一頭持ち込んで自分が生きているというところ、人間とは何なのかを皆んなで、いのち、について考えるユニークな授業を写しています。

いのちに触れる 竹原 幸子

私は、一見健康そうに見えますが、一年半前、大病を患い、現在も通院中です。病院で診察室へ向かう時、私は無神論者ですが、いつも何事も無いように、無事な結果でありますようにと神に祈らずにはいられません。異常ありません。という医者の一言で、ああ!!これで私は又確かに一ヶ月生きられることを証明されたのだというつかの間の安心感を持ちます。私のいのちはこの私の生身の身体に存在しているのにもかかわらず、まるで人から与えられた様なもの、見えない力によって私自身が弄ばれていることに敗北感と歯がゆさを感じるのも本当です。

病気をしても私は個々のいのちが人によって操作される戦争、原爆、計画的に行なわれる殺戮は絶対にあつてはならないのだと痛切に感じました。

死と直面する体験を通して、生命だけでなくすべての楽しみ、生きがい、奪われ不安な日々を送るのは病気の私だけで充分だと思つたからです。戦争で家を焼かれ、肉親を失い死んでいく人々の叫びが私の生への執着とだぶつて重なつていきました。そして恐ろしい人が人を計画的に殺す戦争は何とかがして止めたいというところにながつていつたのです。病氣と反戦なんておかしな結びつきが、でもその思いだけは、一年半、私の胸のうちで形をとることなく潜んだままでした。

そんな折、鳥山敏子さんが書かれた『いのちに触れる』の本をたまたま手にしたのは今年の四月一、半ばのことです。いのち—生と死—のことをずっと考え続けていた私は、『いのちに触れる』というタイトルに魅かれるようにして本棚からひきだしました。偶然の出会いでしたが私にはまさに衝撃的でした。この本を讀んで長い間まさぐつていたものが、上映ということで形となつたのです。

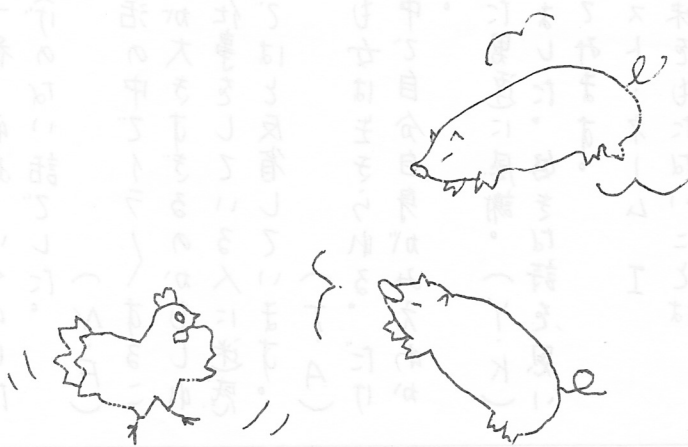
自分が生きていくために当然のこととして口にしていた野菜や肉、——屠殺された動物はパック詰め毎日の食卓にのぼります。でもこの私のいのちを支えるために自らの生命をいやおうなく提供しなければならなかった多くの動物たちの生のこととを考えたことはありませんでした。それと同時に

に私の現在の生活を支えるために三諸国で低賃金労働に従事している人々、過去の戦争で祖国のためにと死んでいった若者達、不当な理由で差別されていく彼らに思いをはせました。何か私の存在そのものに過去、現在、未来があって人が生きているという事は、すべてのことにつながっているのだ、ここからここまてという区切りはないのだとわりと実に簡単なことを、私の体験と重ねることによって実感として受けとめさせてくれるきっかけをつくってくれたよりな気がします。知識として今まで私の頭の中だけでわかっていたものが、すべてひっくりかえされ、洗い直されました。

鳥山先生は実にうまく子供達、私達大人に考えるきっかけをつくってくれます。先生の授業は決して御仕着せではなく、子供達の心と身体両方に問いかけられます。

例えば豚の授業の前に鶏を殺して食べるといって授業を行なっています。鶏を殺す時泣きわめいて逃げ回り、絶対に鶏肉なんか食べれるものかと思っていた子が、火にあぶられおもしろいな臭いがあると思わずはおぼります。鶏のいのちに涙した自分と食べてしまった自分の発見——そして、それは日常にひきもとされて、私は人をいじめてしまった。でもその私は今いじめられている。むしろ私という人がわからない、という感想文になって

います。非難しいたものが自分の身の内に入り誇りとしていたものが奥体のないものであるという経験を積み重ねて世の中と身の内の混沌さを受け入れる。そしてそこから出発するという鳥山流授業に感動しました。



お知らせ

◇映画

「沖繩戦・未来への証言」と

まよなかしんやフオークコンサート

日時 七月十九日 六時十五分

場所 自治会館

料金 大人 八〇〇円

学生 六〇〇円

小中高四〇〇円

主催 長崎の教育通信

連絡(五六一三九九 三岳)

◇「長崎を平和都市に！市民運動

(ある時はピース・バス長崎)」

旗上げ集会の日程と会次第

一会の名称 今、「長崎の平和を問いなあす

市民集会

二日 時 八月一日(金) 午後六時〜九時

三会場 長崎県総合社センター

四参加費 五〇〇円(大学生以上)

五会次第 映画「侵略」上映 六〇分

経過報告 一五分

記念講演(前田哲夫氏) 七五分

活動方針提案 一五分

コーヒーブレイク



☐六月十四日の誕生日には、夫が深紅のバラの花を三十本プレゼントしてくれました。でも開ロー一番「わあ、いくらしたの！」とは可愛げのない話でした。

(N・F)

☐最近、日常生活の中でイライラ／＼することはかり、期待が大きすぎるのかもかもしれません。一緒に仕事をしている人に迷惑をかけているのではと反省しています。

(T・A)

☐男がいなくても女は生きられる。だけど男との関係の中で自分自身がみえわかったことも多い。

まずは出会った男達に感謝。(Y・K)

☐いい映画を観ました。好きは詩を思いついたので書いてみます。

ゴヤのファースト・ネーム I

何にもつまない興味をもたないことは不幸なことだ

ただ自らの内部を眼を閉じてのそきこんでいる。

何にも興味をもたなかったきみか ある日ゴヤのファースト・ネームが知りたくて隣の部屋まで駆けていた。(Y・Y)

発行者	長崎・女の会「女の会通信編集委員会」 長崎市中園町4-17(山田善子気付)44-8842	事務局	長崎市滑石1丁目4-1-601 (栗山洋子気付)56-7595	印刷	対比印刷	N691
-----	---	-----	------------------------------------	----	------	------